

【NOTE】

絵葉書『平和記念 東京博覧会 原色写真版』

久保田稔男

国立科学博物館産業技術史資料情報センター
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

The Picture Postcards Titled “The Tokyo Peace Exhibition, Tri-color Printing”

Toshio KUBOTA

Center of the History of Japanese Industrial Technology, National Museum of Nature and Science,
4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0005, Japan
e-mail: kubota@kahaku.go.jp

Abstract The picture postcards titled “The Tokyo Peace Exhibition, Tri-color Printing” are a set of the postcards prepared for the 1922 (Taisho 11) opening of the exhibition at its venue in Ueno Park. In the field of modern architectural history, members of Bunriha Kenchiku Kai, the reputed vanguard of Japan’s early architectural movement, attracted attention for having designed the exhibition pavilion. It was their first opportunity to embody, in real construction, their thoughts toward new forms of architecture. In that prewar era, the exhibition also was a source of information with regard to the latest knowledge developed in a variety of fields. The analysis of picture postcards that have the exhibition pavilion as the motif helps us to understand the latest building trends of the time. I collected these documents to get an idea of how new ways of architectural thinking caught on and spread in Japan. After observing postcard design and stamp condition, I think that at least two sets of postcards sold separately in connection with the exhibition intermingled before being passed down to the present.

Key words: The Tokyo Peace Exhibition, Bunriha Kenchiku Kai, picture postcard

1. 平和記念東京博覧会とは

平和記念東京博覧会は、1922（大正11）年3月10日から7月31日まで、上野公園を会場として催された博覧会である。第一次世界大戦の終戦を記念して開催されたもので、戦前期に上野公園で開催された他の博覧会と同じく、殖産興業・貿易振興を目的として開催された¹⁾。

本博覧会は近代建築史分野において、以下の2点について特筆される博覧会である。

- (1) 会場内に「文化村」として展示された実験住宅の数々により、それまでの日本になかった居間中心型の住居形式が提案され、日本にお

けるその後の住宅建築の設計に影響を与えた²⁾。

- (2) 日本における最初の建築運動として知られる「分離派建築会」の主要メンバーが、本博覧会の一部のパビリオンを設計し、過去の建築様式にとらわれない新たな建築を目指すという彼らの思想を、実物でもって体現した最初の実験となった³⁾。

(1) については、内田青蔵博士らを筆頭に、日本近代住宅史における研究テーマとして数多くの論考がなされている。しかしながら(2)については近代建築史の通史の中で必ず取り上げられるも

のの、分離派建築会の主要メンバーが実作デビューした博覧会、といった程度の紹介にとどまり、これまで深く考察されたことがなかった。

筆者はかねがね、日本近代建築史における上野公園という場所性に着目し、上野公園は日本の近代建築史を語る上で、各時代を象徴するような歴史的建造物が一箇所に集中して現在も残されている稀有なフィールドである事を紹介してきた⁴⁾。周知の通り、上野公園では戦前期に度々博覧会が開催されている。他の産業分野も同様であるが、建築分野においても、新種の取り組みや新たな発明発見が博覧会場を情報発信源として、日本各地に伝えられたと思われる。平和記念東京博覧会において、分離派建築会のメンバーによって創られた最初の実作が、どのような形で建築界のみならず、当時の日本国民に認知され受け入れられていったのか、その過程を明らかにするための有力な資料となると思われるところから、今般、博覧会の各パビリオンを掲載した絵葉書である『平和記念 東京博覧會 原色写真版』を収集した。本稿では、収集した資料の概略について紹介する。

2. 本資料の構成

本資料は、絵葉書を収納する封筒と13枚の絵葉書とで構成される。

封筒は中央に「平和記念／東京博覧會／原色写真版」とその表題が記され、表題の下に白いハトを描くとともに、その周りを円形にリース状の装飾で取り囲んだ図案がカラーで印刷されている(図1)。ハトは本博覧会のシンボルで、入場券や関係者が着用する徽章などに図案化されて使用されており、それらに合わせた図柄であるといえる。また、封筒の表面には、同じく羽を広げたハトを図案化し、中に「平和記念博覧會／大正十一年三月開會」の文字を入れ込んだスタンプが捺印されている。封筒の裏面には印刷はなされていない。

封筒に収納された絵葉書は、葉書の宛名面にあたる面のデザインの違いによって、二つに大別できる。一つは宛名面に「郵便はかき／union Postale universelle.／CARTE POSTALE／MADE IN JAPAN」と茶色のインクで印刷され、切手貼付欄はパレットと絵筆を図案化したイラストとなっており、いわば洋風のデザインで構成されている(図2)。もう一つは「郵便はかき／CARTE



図1 絵葉書『平和記念 東京博覧會 原色写真版』の封筒



図2 赤系の宛名面

POSTALE」と青色のインクで印刷され、切手貼付欄は青海波に鳥が舞うさまを図案化したイラストとなっており、いわば和風のデザインで構成されている(図3)。前者は、絵画面(宛名面とは裏側の面)の下部に、掲載された絵(写真)の画題(タイトル・キャプション)が記載され、その文字が赤色で印刷されているところから、仮に「赤系」と称する。後者も絵画面下部に画題を記載しているが、その文字は青色で印刷されているところから「青系」と称する。

赤系は前述のとおり、赤色で画題を印刷し、各

画題の冒頭は「(平和記念東京博覧會)」と括弧書きされた博覧會名で始まる。さらに絵葉書の絵画面上に封筒に押されたものと同じ「平和記念博覧會／大正十一年三月開會」の捺印がなされている(図4)。一方、青系については各画題の冒頭を「平



図3 青系の宛名面



図4 「平和記念博覧會／大正十一年三月開會」の捺印

和記念東京博覧會」と括弧無しの博覧會名を記載し、絵葉書の絵画面には赤系のような捺印はなされていない。

また、絵葉書のサイズに微妙な差異と傾向があり、赤系は短辺方向が92mmとどれも同じであるが、長辺方向が144mmのもの142mmのもの2に大別できる。青系は、長辺方向が143mmであるが、短辺方向が93mmのもの91mmのもの。さらに異なる寸法で139mm×92mmのものの3種に分類できる。

絵画面に採用されている写真の被写体は、博覧會のパビリオンや門といった博覧會施設で、モノクロ写真上に彩色を施したカラー印刷である。

興味深いのは、赤系の被写体には博覧會施設とともに必ず人物が写されており、博覧會の賑わいを伝えるものとなっている一方で、青系の被写体は博覧會施設のみで構成され、人物は入っていない。いわば現代でいうところの「建築写真」となっている。

以上を総合して考えるに、本資料はもともと別のセットとして製作されていた2組の絵葉書が、混在して現在に伝わったものと考えられる。特に封筒と、「赤系」として整理した6枚の絵葉書は、表面に「平和記念博覧會／大正十一年三月開會」の捺印がなされるという共通点があることから、封筒の表題である『平和記念／東京博覧會／原色写真版』として当初製作された絵葉書は、「赤系」の絵はがきであった事が伺える。ただし封筒には今ある赤系の絵葉書6枚分以上に絵葉書を入れられる余裕があり、当初は赤系6枚の他に別の絵はがきを加えて1組として売られていた可能性が高い。それらの絵はがきが現在に伝わる過程で青系のものに入れ替えられ、現在に至ったものと考えられる。

表1 絵葉書の構成

袋			「平和記念博覧會 大正十一年三月開會」の捺印あり	
赤系	赤I (144mm×92mm)	2枚	【宛名面】 ・「郵便はかき union Postale universelle. CARTE POSTALE MADE IN JAPAN」	【絵画面】 ・赤字によるタイトル記載 ・「平和記念博覧會 大正十一年三月開會」の捺印あり
	赤II (142mm×92mm)	4枚		
青系	青I (143mm×93mm)	3枚	【宛名面】 「郵便はかき CARTE POSTALE」	【絵画面】 ・青字によるタイトル記載
	青II (143mm×91mm)	2枚		
	青III (139mm×92mm)	2枚		

3. 今後の展望

時代の新旧を問わず、博覧会等の催し物開催にあたって作成される絵葉書は、イベントの主催者がなにを見所として考えていたのか、あるいは絵葉書を制作・販売する事業者が何を新規な物・珍奇なものにとらえていたか、その意識の反映であると考えられる。博覧会場で売られた絵葉書は膨大な種類に及ぶと思われ、そのすべてを収集することは不可能ではあるが、ある程度まとまった数を収集し、画題として取り上げられた被写体の登場数を定量的に分析すれば、自ずと主催者や事業者の意図や国民の受け止め方の傾向が見えてくると考える。本稿の冒頭で述べたとおり、特に平和記念東京博覧会においては、日本で最初の建築運動である分離派建築会のメンバーが、実作を初めて発表した、建築史上においても特別な博覧会である。博覧会のパビリオンを画題とした絵葉書を多数比較検討する事によって、そこで発信された新しい建築の情報が、建築界のみならず日本国民にどのように受け止められたのかを知ることができると考えられ、本資料はこのような観点から、重要な資料として位置付けられる。

参考文献

- 1) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 1, 81.
- 2) 内田青蔵・藤岡洋保, 1995. 「峰岸邸(旧平和記念東京博覧会文化村島田藤吉出品住宅)について」『日本建築学会学術講演梗概集, F-2, 建築歴史・意匠』, p. 5.
- 3) 神代雄一郎, 1968. 「日本における近代建築思潮の形成」, 建築学大系編集委員会『建築学大系6 近代建築史』彰国社, p. 302.
- 4) 久保田稔男, 2006. 「上野公園の近代建築史」, 国立科学博物館, 国立科学博物館ニュース, No. 450, pp. 26-29.
- 5) 森仁史監修, 2009. 『叢書・近代日本のデザイン25 「分離派建築会 宣言と作品」分離派建築会 「分離派建築会の作品 第二刊」分離派建築会 「分離派建築会の作品 第三刊」分離派建築会・関西分離派建築会』ゆまに書房, pp. 133-135, pp. 137-138.
- 6) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 105.
- 7) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 下』東京府庁, p. 289.
- 8) 日本建築学会, 1914. 『建築雑誌』日本建築学会, vol. 28, no. 322, 巻末口絵.
- 9) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 96.
- 10) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 33.
- 11) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 108.
- 12) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 下』東京府庁, p. 287.
- 13) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 下』東京府庁, p. 287.
- 14) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 99.
- 15) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 100.
- 16) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 106.
- 17) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 96.
- 18) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 98.
- 19) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 98.
- 20) 東京府庁, 1924. 『平和記念東京博覧會事務報告 上巻』東京府庁, p. 100.

絵葉書『平和記念 東京博覧會 原色写真版』 目録 (1/5)

番号	分類	絵画面 (【 】内は絵葉書に記載のタイトル)	宛名面
1	封筒	 【平和記念 東京博覧會 原色写真版】	
2	赤I	 【(平和記念東京博覧會) 動力機械館】 分離派建築会会員である、堀口捨己による設計⁵⁾。不忍池周辺を会場とした第二会場に建設された、「本會諸建築物中最モ異彩ヲ放テル穹窿形屋根ヲ有スル建築物ナリ」⁶⁾と報告された建物である。	
3	赤I	 【(平和記念東京博覧會) 龍宮館 龍宮門】 龍宮館は、博覧會事務局とは別の、興業物のひとつとして銀座のカフェ・パウリスターによって第二会場・弁天堂に至る不忍池中に建設された。3階建てで階下を興行場、階上を食堂として使用した。絵葉書上の右奥の建物がそれにあたる⁷⁾。「龍宮門」とされた左手前の建物は、弁天堂に至る門としてすでにあつたもので、正確には「天龍門」といい、博覧會の仮施設とは異なる⁸⁾。	

絵葉書『平和記念 東京博覧会 原色写真版』目録 (2/5)

番号	分類	絵画面 (【 】内は絵葉書に記載のタイトル)	宛名面
4	赤II	 【(平和記念東京博覧会) 第一会場正門】 現在の竹の台広場(噴水広場)の南端、小松宮像の手前に位置し、上野の山一体を会場とした第一会場のゲートとされた。門前には新海竹太郎の手になる彫刻「海の幸」・「山の幸」が設置された⁹⁾。	
5	赤II	 【(平和記念東京博覧会) 樺太館】 特設館として第二会場に建設された。特設館は博覧会事務局とは別に本博覧会の趣旨に賛同して出品されたパビリオンで、都道府県からの出品が該当する¹⁰⁾。樺太庁の建物を模倣し、樺太住民の文化・産業を展示した¹¹⁾。	
6	赤II	 【(平和記念東京博覧会) 万国街】 興業物のひとつとして、現在の寛永寺輪王殿脇の駐車場の地に建設された。欧米舞踊・馬の曲芸・エジプト魔宮殿など、今で言うところのテーマパーク的な催しが開催された¹²⁾。	

絵葉書『平和記念 東京博覧会 原色写真版』 目録 (3/5)

番号	分類	絵画面 (【 】内は絵葉書に記載のタイトル)	宛名面
7	赤II	 【(平和記念東京博覧会) 演芸館】 興業物の一つとして、平和記念東京博覧会協賛会によって、現在の東京文化会館のあたりに設置された。内外の舞踊や里謡が演じられた¹³⁾。	
8	青I	 【平和記念東京博覧会 第一会場 蚕糸館】 現在の学士院あたりに中庭を持った建物として建設された¹⁴⁾。	
9	青I	 【平和記念東京博覧会 第一会場 美術館】 美術館は現在の国立科学博物館・地球館あたりに建設された。窓がなくトップライトにより採光した施設で、設計に際して正木直彦の指導がなされた¹⁵⁾。	

絵葉書『平和記念 東京博覧会 原色写真版』目録 (4/5)

番号	分類	絵画面 (【 】内は絵葉書に記載のタイトル)	宛名面
10	青I	 【平和記念東京博覧会 第二会場 航空館及交通館】 「航空館交通館」¹⁶⁾として第二会場に建設された。	
11	青II	 【平和記念東京博覧会 第一会場 平和館】 本博覧会のテーマである「平和」の象徴として作られ、映画・講演・コンサートの会場として使われた。正面の「薨」(切妻部分)に平和の鐘をつるして鳴らし、入り口の両側には新海竹太郎の手になる「平和の女神像」が設置された。但し写真ではその様子が伺えず、本写真は建設途中の姿をとどめたものと推測される。現在の竹の台広場の噴水のあたりに建設された¹⁷⁾。	
12	青II	 【平和記念東京博覧会 第一会場 建築館】 現在の竹の台広場に位置し、外観上は3層の建物だが、実際は平屋建ての建物として建設された¹⁸⁾。	

絵葉書『平和記念 東京博覧會 原色写真版』 目録 (5/5)

番号	分類	絵画面 (【 】内は絵葉書に記載のタイトル)	宛名面
13	青III	 【平和記念東京博覧會 第一会場 染織別館】 現在の竹の台広場に位置し、2階建てで「破風造ノ瀟洒タル日本趣味ヲ加味」した建物として報告されている¹⁹⁾。	
14	青III	 【平和記念東京博覧會 第一会場 農産館】 現在の上野グリーンサロン前に位置し、3つの中庭を持つ建物として建設された²⁰⁾。	